南千住の町の記憶を残す

東京工科大学デザイン学部准教授　酒百宏一

町の姿は日々刻々と変化し続けている。新しくコンビニができたと思えば、60年続いたパン屋がひっそりと店を閉じ、古い町並みも再開発をきっかけに立ち退きを余儀なくされ、いつしか新しい道路ができるといった具合に。これらは何も南千住に限ったことでもなく、ごくありふれた現代の町の日常となってしまっている。

南千住は、隅田川が大きくカーブして半島のように突き出たところにあり、昔から交通の要衝だった。そうした立地の良さから、大規模な工業が発達し、町工場の町として古き良き昭和の暮らしがあった。

しかし、急激な経済成長とともに古くからの下町も大幅な再開発によって町の半分が失われ、どこか郊外のニュータウンのような錯覚さえ覚えるほどになってしまった。

弁天湯のお別れイベントで、色鉛筆をこする人々

色鉛筆で制作、秋には展覧会も

私が荒川区南千住で始めたこのプロジェクトのきっかけも、地元で理髪店を営む海老江重光さん（NPO法人千住すみだ川代表）からの南千住に暮らす人間が、肌で感じる焦燥感にも似た依頼から始まった。

日頃、私は、凹凸のある面に紙をあてて上から色鉛筆でこすりだすフロッタージュという描画の技法で、物の一部を写しとる作品を作っている。どこにでもある同じような物でも、その場所にあり続けることでついた傷や染みなどの痕跡は、様々な異なる物語を持ってそこにある。そうした物の〝記憶〟を紙に写しとる制作行為を続けている。

そんな私自身が行っている行為をより多くの方々と共有することを目的として行っている活動が、この『1000×10 南千住・町の記憶PROJECT』である。

南千住の記憶を持つ様々な場所でフロッタージュのワークショップを開き、それぞれの視点で、それぞれの思いで、作品を作ることで、その場所と向き合ってもらう。その作品には、〝南千住〟と〝私〟が〝記憶〟されることになり、その記憶を1000×10（センジュ）つまり〝10000枚〟集めて、新たな作品として多くの人に見てもらう。現在6300枚、予定ではこの秋にもその展覧会を実施する計画である。

42年間働いた職人が「感無量」

2年前から始まったこのプロジェクトの最初のワークショップは、南千住で創業100年以上の機械製作会社、南千住製作所（現・南千住エンジニアリング）が移転し、その後すぐに高層マンションが建設されるという話から、急きょ、社長に直談判し、小学校の地域学習として実施したものであった。工場内の広大な敷地には、かつての作業の痕跡が地面におびただしく残されていた。

ここで42年間働いた職人が、当初私たちの行為を半信半疑の面持ちで眺めていたが、自分の生きた証を子どもたちが写しとる姿を見て、「感無量」と話してくれた。

このように町のルーツにも関わる大切な場所というのは、皆の共有の財産のようなもので、ずっと町になじんでいて、私たちには、店を閉じることも、解体して新たに何ができるかも知らされないことが多い。気がついたら風景が一変してしまっていて、その場所や土地について名残を惜しむことすらできない。

しかしこの活動で、これまで一般に入ることができなかった場所に足を踏み入れ、〝記憶〟という視点からその場所を改めて見て、触れて、自分の手でその場所を記録として残すこと。その場所が生まれ変わっても、地元の一部の人にはその記憶を継承できたことになるのではないだろうか。

過去に思いをはせ町を再認識

最近も都内でも最も古いとされる三ノ輪にある銭湯の弁天湯が、この1月6日に営業を終え、その2日後にお別れのイベントとしてワークショップを行った。

南千住は開発が進む一方、まだまだ下町情緒あふれる場所も多く残っている。その象徴的なものが銭湯であり、大人も子どもも同じ湯に浸かり、社会の交流の場として機能していた。銭湯は町や人とのつながりを持った記憶を共有できる地域の宝なのである。

当日は、近所のなじみの方やこのことを知って遠方から最後の銭湯を一目見ようと多くの来場者があった。改めて町にずっとあり続けた場所というのは、所有者だけのものではなく、町の共通の記憶として存在していたのだった。

人は見慣れてしまうと、町の一つひとつの場所やディティールに対してさほど意識を払わなくなってしまう。ましてや自分の足下、自分の住んでいる町のことは意外と知らない。

ごくありふれた一見何気ない場所に立ち止まり、その場所の過去の遠い記憶に思いをはせながら自分たちのいる町を再認識する。そうした時間や場が、地震の体験を多くの人が共有した今だからこそ、大切な気がする。

さかお・こういち＝美術作家。1968年金沢市生まれ。東京藝術大学大学院修了。現在、フロッタージュという描画技法を駆使したオリジナルの技法で活動。近年は各地で一般参加者と土地の記憶を写しとる活動を展開している。